第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アマミタカチホヘビ

Achalinus werneri Van Denburgh, 1912

太田英利（兵庫県立大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：太田英利，2026．アマミタカチホヘビ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 234-237．

Citation: Ota, H., 2026. *Achalinus werneri* Van Denburgh, 1912. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 234-237.

有鱗目 Squamata　タカチホヘビ科 Xenodermidae　　日本固有

アマミタカチホヘビ

***Achalinus werneri* Van Denburgh, 1912**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　②				
基準 A:　－	基準 B:　VU 未満	基準 C:　－	基準 D:　－	基準 E:　－
生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ②生息条件が悪化している。 【判断理由】 沖縄島中南部では森林伐採や土地造成、舗装道路・側溝の敷設などにより、生息地の縮小や分断が生じていると考えられる。				
評価分科会：　爬虫類・両生類分科会				

概要

全長 300～600 mm ほどの小型のヘビで、奄美諸島と沖縄諸島の一部の島嶼に分布する。湿潤な森林とその周辺に生息し、ミミズを捕食することが知られている。乾燥に弱く、移動能力も低いため、森林伐採や土地造成、舗装道路・側溝の敷設などによる影響を受けやすく、一部地域では生息地の縮小と分断が生じていると考えられる。

基礎情報

【形態】

頭胴長は成体で 240～420 mm、ふ化直後では 108～124 mm ほどで、尾長はその約 1/3～2/5 に達する。体型は全体的に細長い。体鱗は虹色の光沢を帯び、胴中央で 23 列（ごくまれに 21 列）に並ぶ。腹板はオス 157～171 枚、メス 174～191 枚。尾下板は左右に分かれておらず、オスで 90～98 枚、メスで 67～85 枚。体色は、背面が暗褐色で、しばしば正中線上に黒色の縦条が走る。腹面は黄色。

【生活史】

一腹卵数は 3～8 個。輸卵管卵をもつ個体は 4 月上旬～6 月上旬に見られ、5 月中旬には産卵も観察されている。

【生息環境】

落ち葉の中や枯れ草の下といった物陰に隠れる性質が強く、そのため人目につきにくいが、少なくとも沖縄島では今のところ必ずしも少なくはない。森林床のほか、陸水に隣接した草地など比較的開けた環境にも見られるが、乾燥や高温にはきわめて弱い。ミミズ類を捕食する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部】森林，草地，耕作放棄地
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(2) 里地里山・田園地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

奄美諸島の奄美大島、枝手久島、加計呂麻島、徳之島、沖縄諸島の沖縄島、渡嘉敷島に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

沖縄島の中南部では、森林伐採や土地造成、舗装道路・側溝の敷設などにより、生息地の縮小や分断が生じていると考えられる。

【生息地の現況】

山地や丘陵、また墓地や拝所周辺の湿潤な森林に生息する。沖縄島中南部の生息地は、開発等の影響で縮小・分断が生じている。

【個体数の現況】

落ち葉の中や枯れ草の下といった物陰に隠れる性質が強く、そのため人目につきにくいが、少なくとも分布域全体を考えると、今のところ個体数は必ずしも少なくはない。

存続を脅かす要因

運動能力が低いため、舗装道路や側溝の敷設、土地開発などにより簡単に個体群が分断

され、局地的な消滅が生じると思われる。外来種マングースによる捕食の影響も懸念される。		
要因の区分：	（過去）	土地造成，交通インフラ建設，捕食（外来種による）
	（現在）	土地造成，交通インフラ建設，捕食（外来種による）

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第４次 2019：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第４次 2018：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第４次 2017：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第４次 2015：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第４次：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第３次：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第２次：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri*	NT
第１次：	アマミタカチホヘビ	*Achalinus werneri van*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【鹿児島県】準絶滅危惧，【沖縄県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 千木良芳範．2005．アマミタカチホヘビ．沖縄県文化環境部自然保護課（編），改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（動物編）-レッドデータおきなわ-，pp. 123-124．沖縄県文化環境部自然保護課，那覇．
- 太田英利・岡田滋．2003．爬虫類・両生類．鹿児島県環境生活部環境保護課（編），鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物，動物編．鹿児島県レッドデータブック，pp. 82-116．財団法人鹿児島県環境技術協会，鹿児島．

- Ota, H. and M. Toyama. 1989. Taxonomic re-definition of *Achalinus formosanus* Boulenger (Xenoderminae: Colubridae), with description of a new subspecies. Copeia, 1989(3): 597-602.
- 田中聡．1986．沖縄島南部石灰岩林における蛇類の夜間調査．Akamata, 3: 19―23．

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Achalinus werneri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Achalinus werneri* is listed as NT under criteria ②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Grassland, Abandoned farmland
Threat types:	Land development, Transportation infrastructure construction, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	―



執筆者:	太田英利（兵庫県立大学）
Author:	Hidetoshi Ota

公表年月：2026 年 3 月